

全国商工会議所女性会連合会会長賞

「下水やゴミを通して今年学んだこと」

成生小学校 4年 清野 未華

今年の校外学習で下水処理場を見学に行きました。そこで気になったのは、最初に流れ着いた水はとても臭く、きたないということでした。処理場では何度も繰り返し作業をして水をきれいにしていて、最後の方では臭いはなくなっていました。繰り返す回数が多いほど、お金も時間もかかるそうです。もらったパンフレットには、下水に流す前に、できるだけ布などでふいて、汚れを除いてほしいと書いてありました。私が昨年からやっている「いらぬ服で使った食器をふく」ということが、節水だけでなく、ここでも役立っていたとわかり、うれしかったです。

もう一つ気になっているのは、ゴミ問題です。たまにゴミ捨てに行くことがあります。ゴミ置場の扉を開けるととても臭い。なぜ？答えは、夏休み中に読んだ本にありました。お笑い芸人さんがゴミ清掃員のバイトをした経験をわかりやすく書いていました。生ゴミの水分がなくなれば、ゴミはほとんど臭いがしない。袋に入れる時に水分を切れればいいそうです。これはすぐに誰でもやれるのかなと思いました。焼却炉で高温で燃やしているけど、水分があると燃えない。燃えやすくなるようにゴミピッドで全体をかき回して、同じぐらいの水分量にする。水分があればあるほどエネルギーを使い、二酸化炭素を多く発生させている。最近の夏の暑さは、これも原因になっているのでしょうか。びっくりしたのは世界の焼却炉の3分の2は日本にあること。あれだけ分別してゴミを捨てているのになぜかと思いました。日本のゴミの8割が水の生ゴミ、無駄なエネルギーを使っていることがわかります。お隣の韓国では、スマート生ごみ回収箱というのがあり、ゴミの重さで料金が変わるので水分が減らそうと、家庭ですべてできるだけ水分を減らす努力をしています。この制度が日本でも導入されれば、もっと涼しい夏になるのかもしれない。

天童商工会議所女性会会長賞

「ちきゅうをまもりたい」

蔵増小学校 2年 松本 暁飛

ぼくは、じぶんができる「ちきゅうをまもる」について、おかあさんにそうだんしてみました。まずは、つかっていないでん気をけす。でん気のつけっぱなしをしない。エアコンのせっていおんどをたかくしているので、あついときは、ふくをぬいでせんぷうきにあたる。よるは、早くねてでん気をつかわないようにする。おかあさんから、もっとたくさん言われたけど、今すぐにできることは、この三つなので、ぼくができるせつでんで、ちきゅうをまもりたいです。

前に、おとうさんとちくのかつどうでゴミひろいに行きました。たくさんゴミがありました。またごみひろいのかつどうがあったら、さんかして町をきれいにしたいです。

人のあるくばしょにゴミがおちていたらゴミばこにすてたりかたずけたいです。

ぼくが、あったらいいとおもうものは、町なかやゴミばこがないところでゴミをなげた人がいたら、なげた人のところになげたゴミをとどけるロボットがあったらいいなと思います。ゴミをすてる人がいなくなってほしいとおかあさんとかがえました。

ゴミをすててだめなところにすてたら、かならずゴミがもどってきたら、だれもすてなくなると思います。ちゃんとゴミばこにすてるようになると思います。そんなロボットがほしいです。ぼくが、今できる、せつでんやゴミひろいなどしてすこしでも、ちきゅうをまもることができたらいいなと思います。